



第53回 足立区政に関する世論調査 《概要版》

2024(令和6)年8月実施

足立区では、昭和47年から区民の方を対象とした世論調査を実施しており、今回は第53回となります。世論調査の実施にあたっては、多くの区民の皆様にご協力いただき心からお礼を申し上げます。調査結果は、区政運営のための基礎資料として今後の施策に活用してまいります。なお、「第53回足立区政に関する世論調査」の全容をお知りになりたい方は、区のホームページ、区内の各図書館及び区役所区政資料室でご覧いただけます。

今回の調査では、区政全体に対する【満足層】（「満足」＋「やや満足」）は7割台半ば超で、平成25年の設問開始以降の最高値を更新する割合となりました。

区の取り組みで、満足・やや満足と感じている上位3分野は、「情報提供」「自然・緑化対策」「保健衛生対策」で、逆に、不満・やや不満と感じている上位3分野は、「交通対策」「住環境対策」「都市開発」となっています。

また、継続的に聴取している定住性について、【定住意向】（「ずっと住み続けたい」＋「当分は住み続けたい」）は、令和3年調査で初めて8割台となって以降増加を続けています。

- ☐ 定住性
- ☐ 大震災などの災害への備え
- ☐ 洪水対策
- ☐ 区の情報発信のあり方
- ☐ 健康
- ☐ スポーツ・読書
- ☐ ビューティフル・ウィンドウズ運動
- ☐ 環境・地域活動
- ☐ 「孤立ゼロプロジェクト」など
- ☐ 「協働・協創」・「SDGs」
- ☐ 区の取り組み

調査の概要

- ◇対象者……18歳以上の区民
- ◇対象者の抽出……単純無作為抽出法
- ◇対象者数……3,000人
- ◇調査方法……郵送配布、郵送またはインターネットによる回答
- ◇回収数(率)……1,421人(47.4%)
- ◇調査時期……2024(令和6)年8月

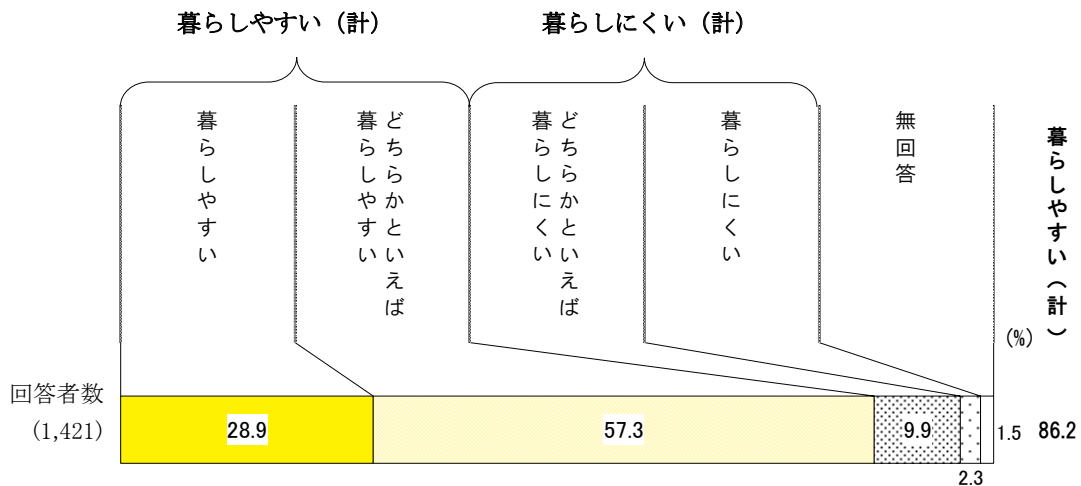
足立区 政策経営部 区政情報課
令和7年3月 発行

定 住 性

- 1 【暮らしやすい】は本設問を開始した以降で最も高くなりました。
- 2 住んでいる地域について感じていることを、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、以下のとおりです。
 - ①〈普段の買い物が便利である〉(76.4%)
 - ②〈通勤や通学などの交通の便が良い〉(68.6%)
 - ③〈快適で安全なまちである〉(62.8%)
 - ④〈まちなかの花や緑が多い〉(62.6%)
 - ⑤〈ごみがなく地域がきれいになったと感じる〉(61.8%)
- 3 【定住意向】は8割超で前回調査をさらに上回り、4年連続で最高値を更新しました。

地域の暮らしやすさ

【暮らしやすい】は本設問を開始した以降で最も高い割合となり、【暮らしにくい】も令和4年度と並んで最も低い割合となりました。



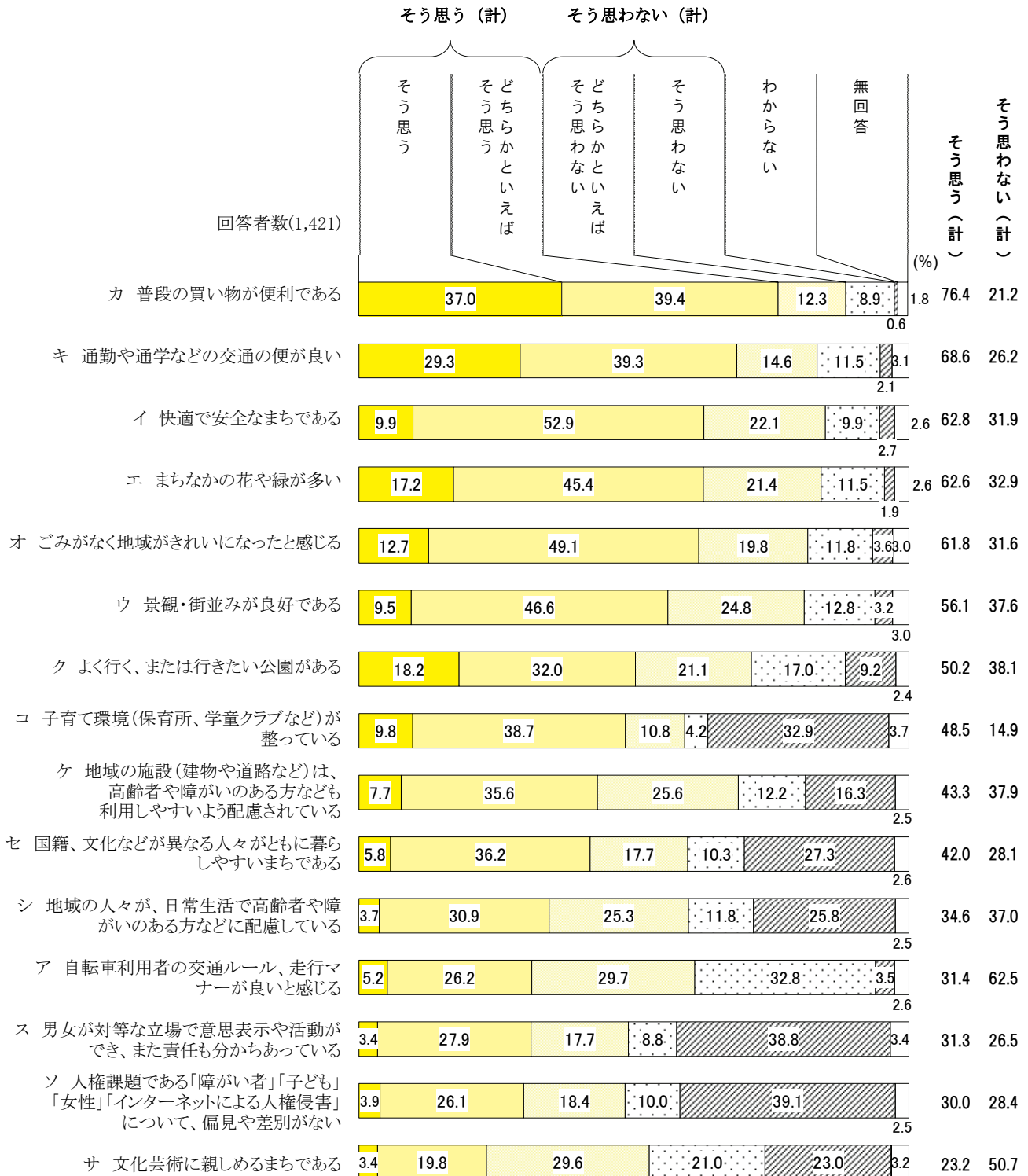
参考1：百分比(%)と百分比(%)を合わせる場合、本来の実数値を合わせて算出した百分比を記しているため、その百分比は紙面上の百分比の合計と合わない場合があります。

2：表題に(複数回答)と表記されている場合は、回答数に制限がないことを意味しています。



住まいの地域についての感じ方

「普段の買い物が便利である」と感じている人は、7割台後半となっています。

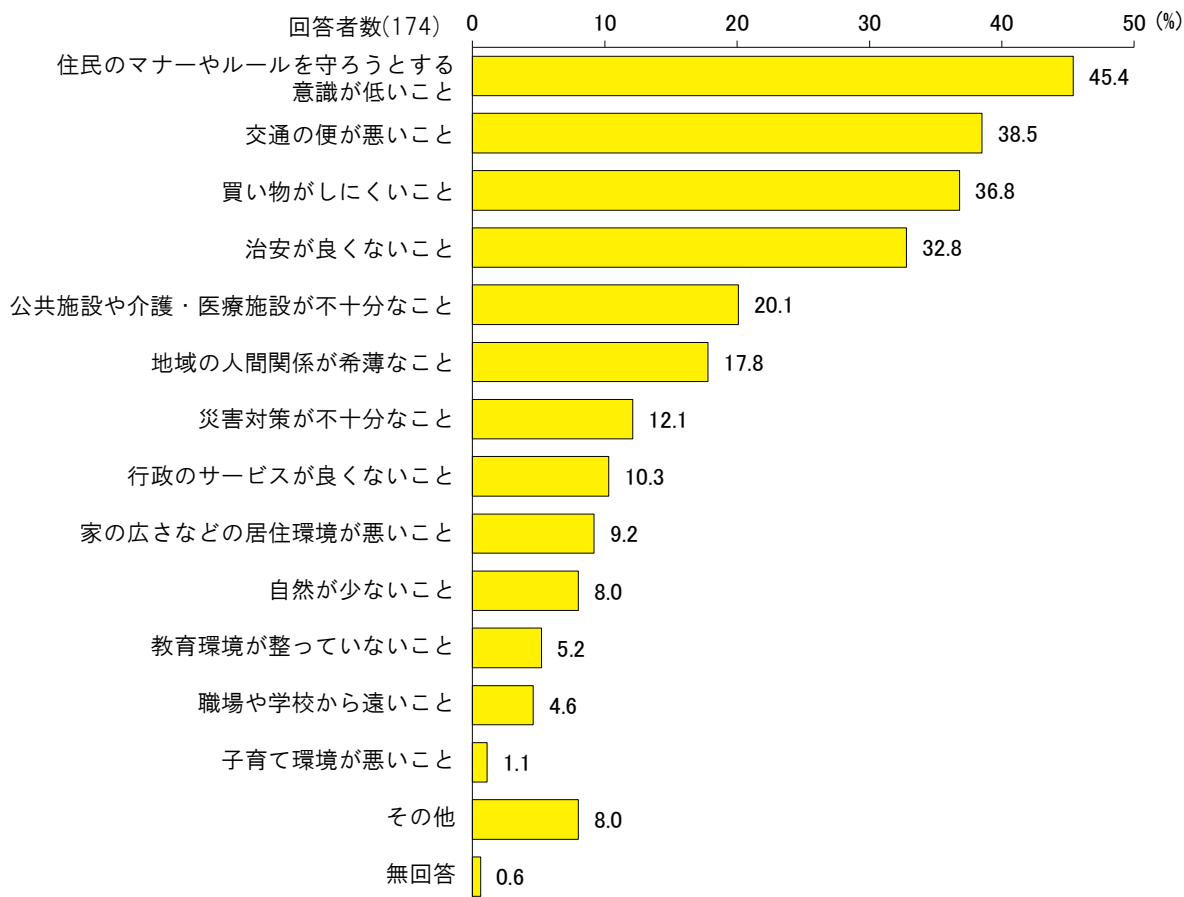




特に暮らしにくいと感じること（複数回答）

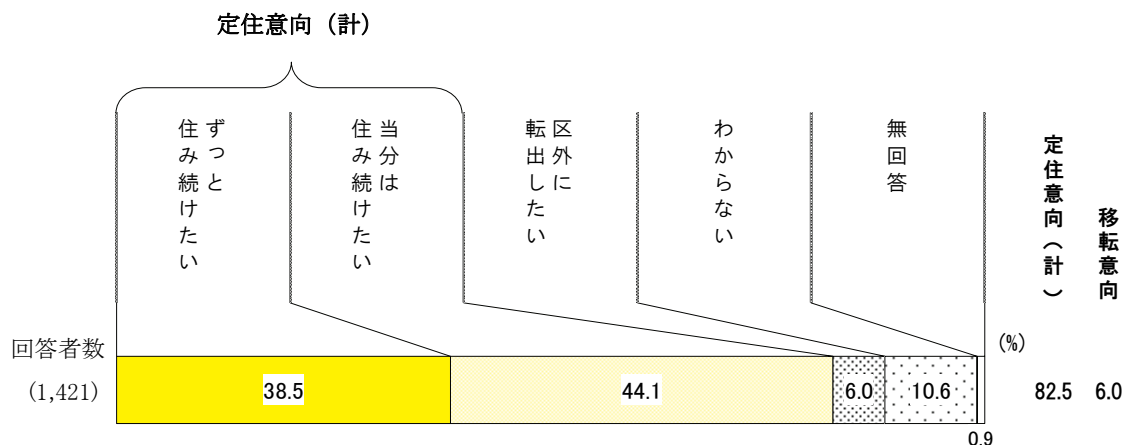
※【暮らしにくい】人の回答

「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」が4割台半ばと5年連続で最も高くなっています。



定住意向

【定住意向】は8割超で前回調査をさらに上回り、4年連続で最高値を更新しました。

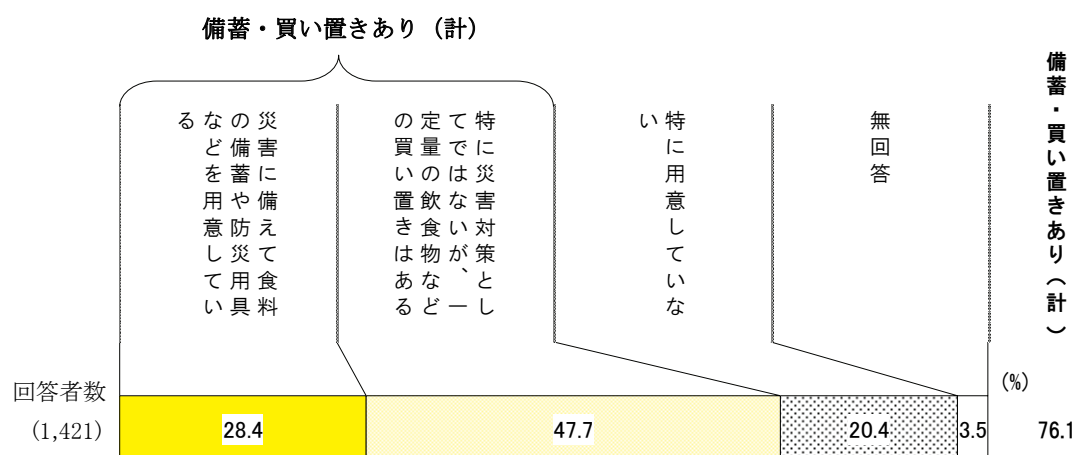


大震災などの災害への備え

- 1 災害に備えての準備状況については、「特に災害対策としてはないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が47.7%で最も高く、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が28.4%となっています。これらを合わせた【備蓄・買い置きあり】は76.1%となっています。
- 2 災害に備えて「特に用意していない」は20.4%となっています。
- 3 前回調査と比較すると、【備蓄・買い置きあり】は前回調査（69.6%）から6.5ポイント増加しており、過去10年間で最も高い割合となっています。

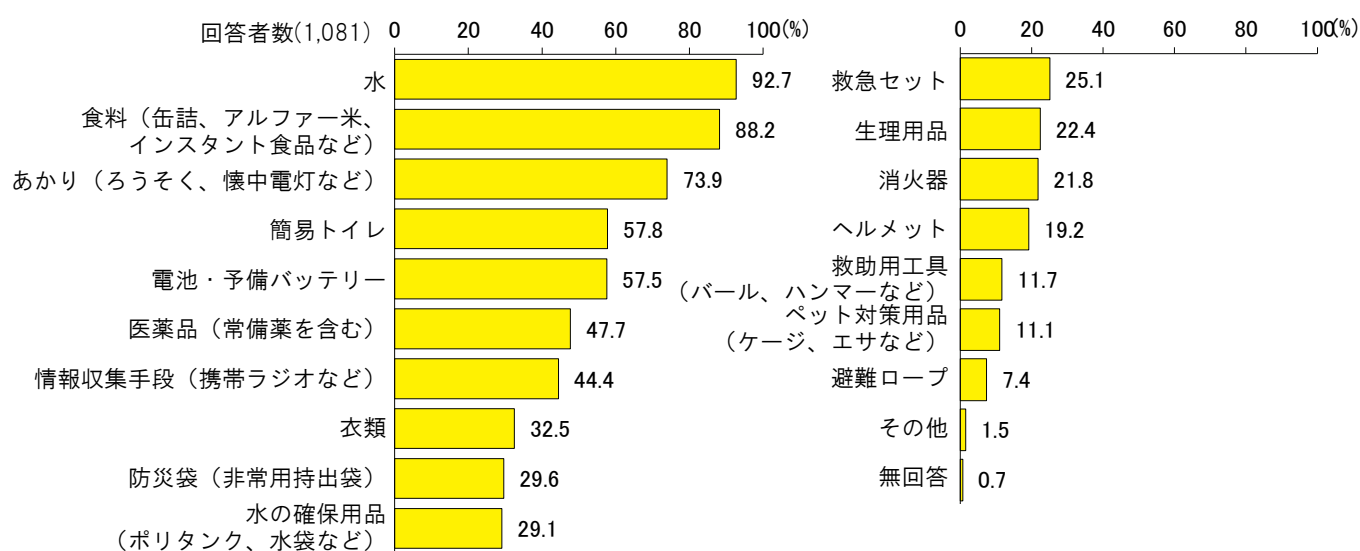
備蓄や防災用具などの用意

【備蓄・買い置きあり】は前回調査から6.5ポイント増加して7割台半ばとなっています。



備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（複数回答） ※【備蓄・買い置きあり】の人の回答

「水」が9割超、「食料」が約9割、「あかり」が7割台半ばとなっています。

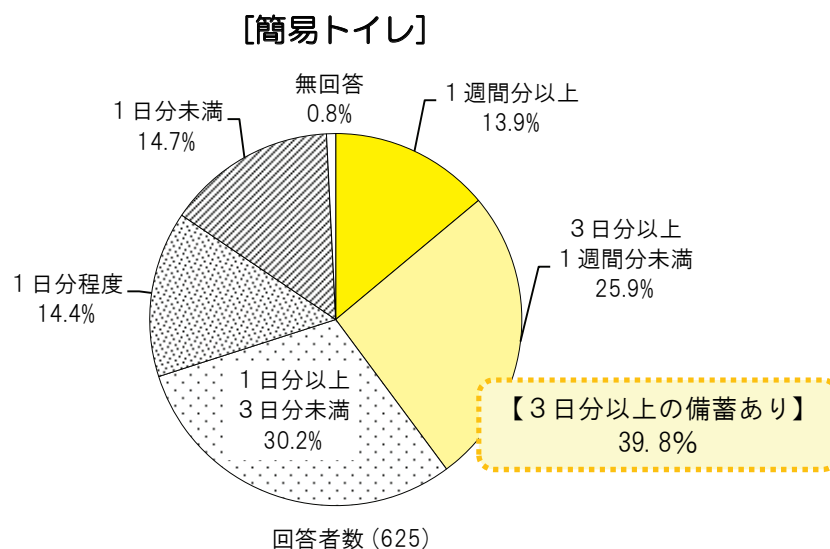
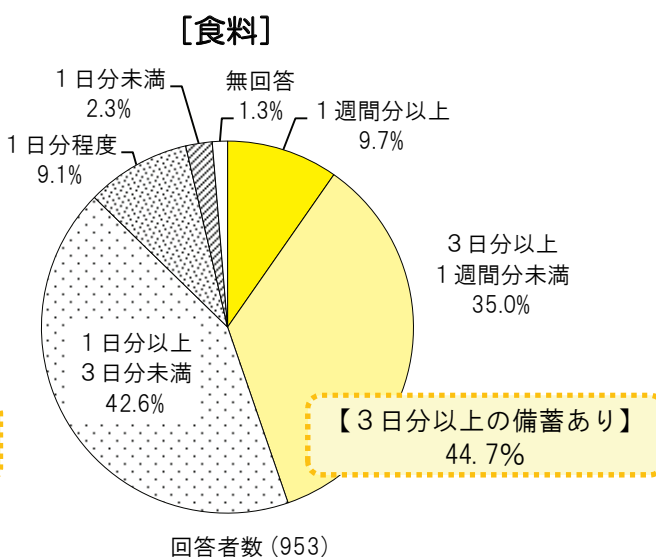
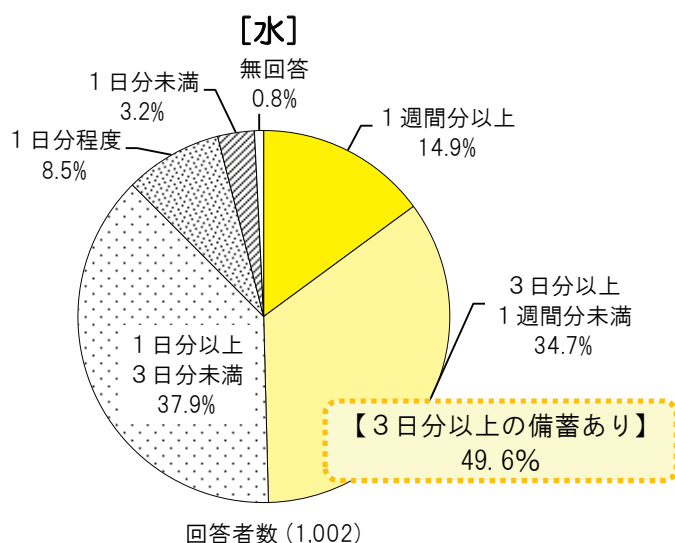




備蓄量（複数回答）

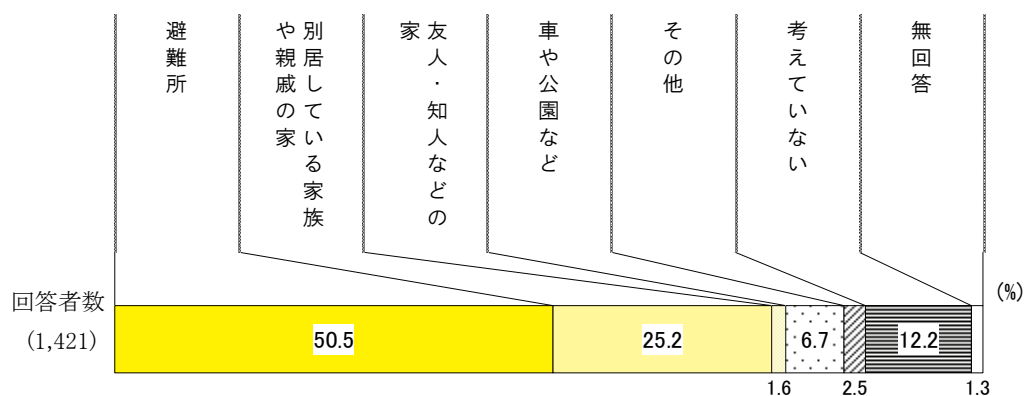
※【備蓄・買い置きあり】の人の備蓄量の回答

【3日分以上の備蓄あり】は「水」が約5割、「食料」が4割台半ば、「簡易トイレ」が約4割となっています。



大規模災害時の避難生活場所

「避難所」が5割で最も高く、他の項目を含めてこの4年間に割合の変化はありません。

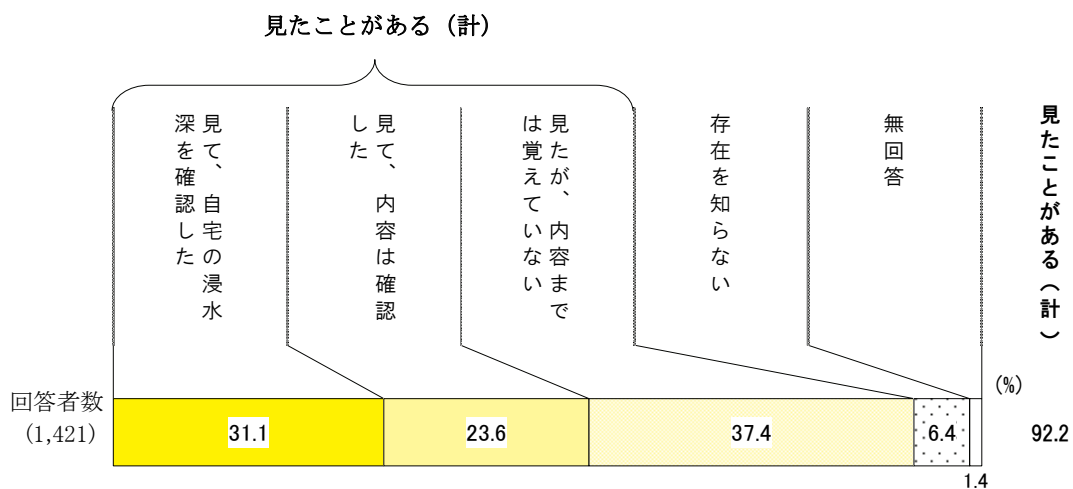


洪水対策

『足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ』について、「見たが、内容までは覚えていない」が37.4%で最も高く、次いで「見て、自宅の浸水深を確認した」(31.1%)、「見て、内容は確認した」(23.6%)となり、これらを合わせた【見たことがある】は9割超を占めています。

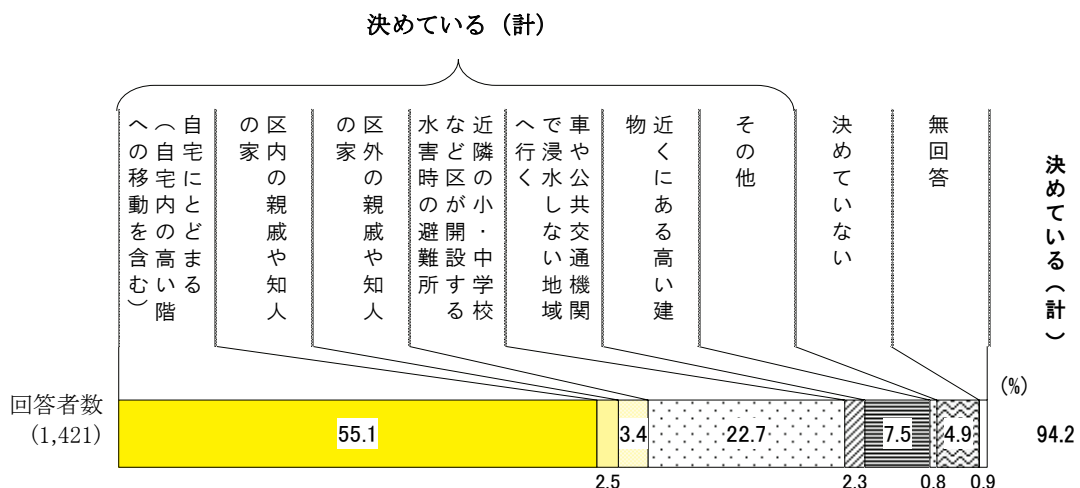
「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

【見たことがある】は9割超で前回調査から微増しています。



河川はん濫時における避難場所の事前決定有無とその避難場所

避難場所を事前に「決めている」が9割台半ばとなっています。決めている場所としては「自宅にとどまる」が5割台半ば、次いで「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」が2割超となっています。

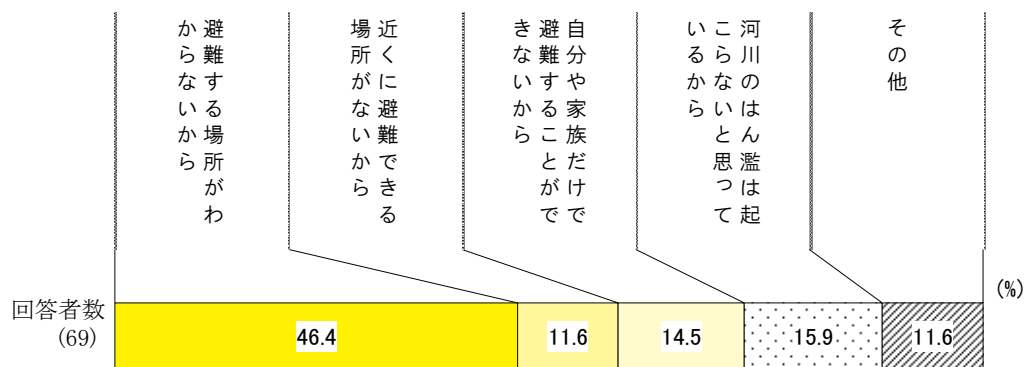




事前に避難場所を決めていない理由

※【事前に決めていない】人の回答

避難場所を事前に決めていない理由は、「避難する場所がわからないから」が4割台半ば、「河川のはん濫は起こらないと思っているから」と「自分や家族だけで避難することができないから」が1割台半ばとなっています。



区の情報発信のあり方

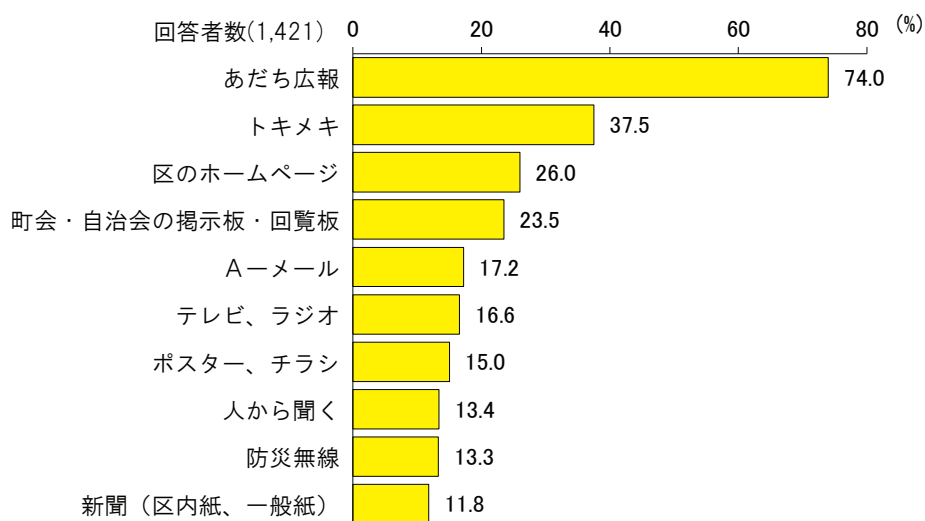
足立区に関する情報の入手媒体の上位は以下のとおりとなっています。

- ①「あだち広報」（74.0％）
- ②「トキメキ」（37.5％）
- ③「区のホームページ」（26.0％）
- ④「町会・自治会の掲示板・回覧板」（23.5％）

- 足立区に関する情報の入手媒体の上位は以下のとおりとなっています。
- ①「あだち広報」（74.0％）
 - ②「トキメキ」（37.5％）
 - ③「区のホームページ」（26.0％）
 - ④「町会・自治会の掲示板・回覧板」（23.5％）

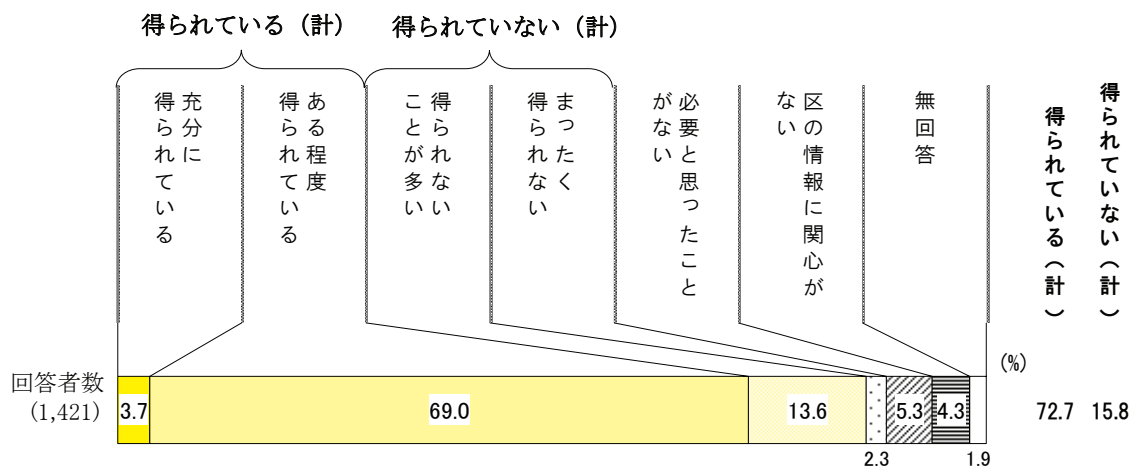
区の情報入手手段（複数回答）

「あだち広報」が7割台半ばで最も高く、次いで「トキメキ」が3割台半ばを超えています。



必要なときに必要とする区の情報の入手状況

必要なときに【得られている】は7割台半ば近くとなっています。

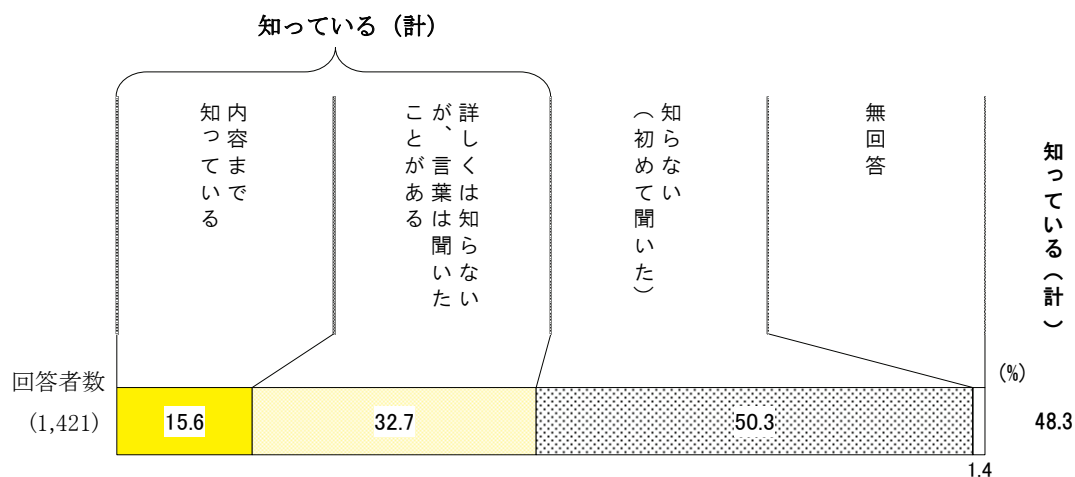


健康

- 1 区のキャッチフレーズ『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」は15.6%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(32.7%)を合わせた【知っている】は48.3%となっています。
- 2 区のキャッチフレーズを「知らない(初めて聞いた)」は50.3%となっています。
- 3 前回調査と比較すると、【知っている】は3.1ポイント増加しており、平成28年度調査の本設問開始以降で最も高い割合となりました。

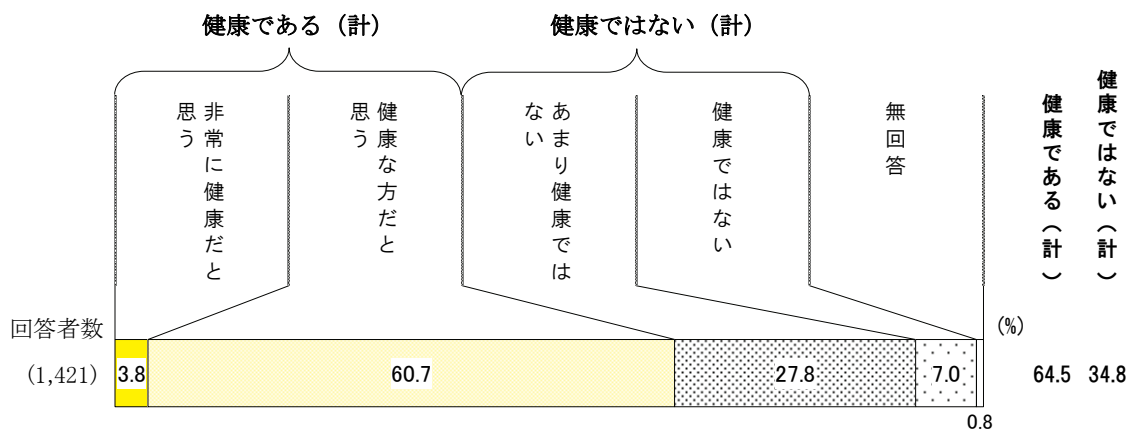
区のキャッチフレーズの認知状況

区のキャッチフレーズを認知されている方は5割弱で最高値を更新しました。



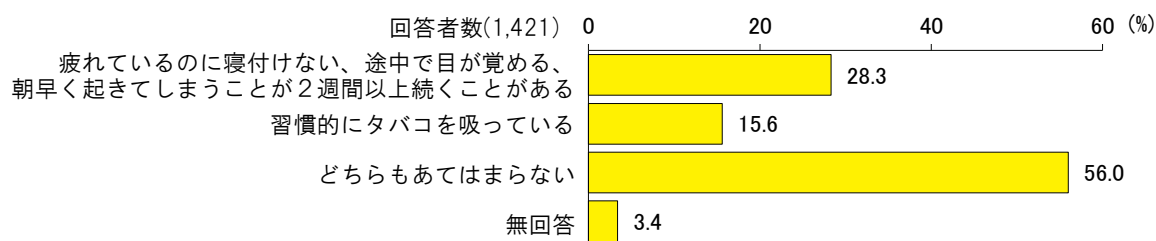
自分の健康自認度

自分は【健康である】と自認している人は6割台半ばとなっています。



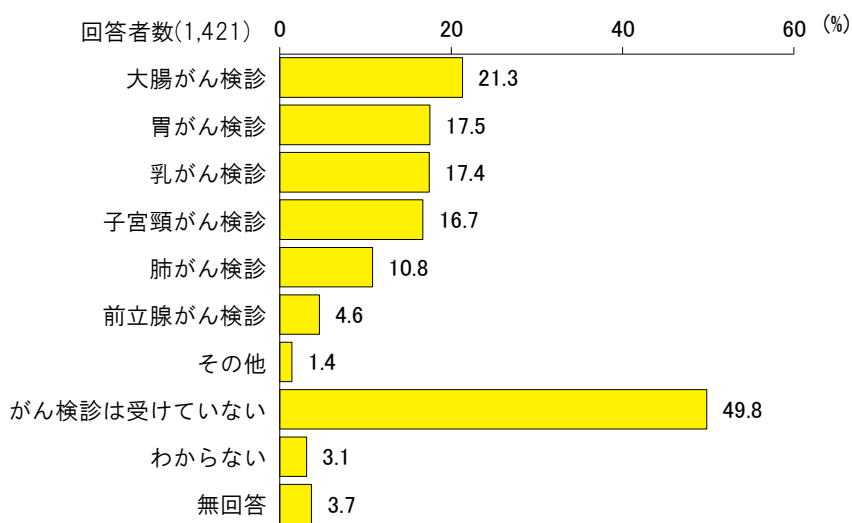
体調や習慣（複数回答）

体調や習慣では、「疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある」が3割弱、「習慣的にタバコを吸っている」が1割台半ば、「どちらもあてはまらない」が5割台半ばとなっています。



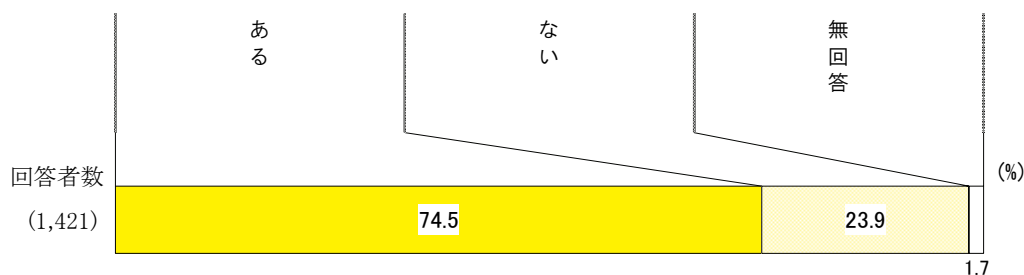
がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類（複数回答）

【がん検診を受けた】は4割台半ばで、「がん検診は受けていない」（約5割）を下回っています。受けたがん検診は、「大腸がん検診」、「胃がん検診」、「乳がん検診」の順となっています。



安心して受診できる医療機関

安心して受診できる医療機関が「ある」は7割台半ば、「ない」が2割台半ば近くとなっています。



スポーツ・読書

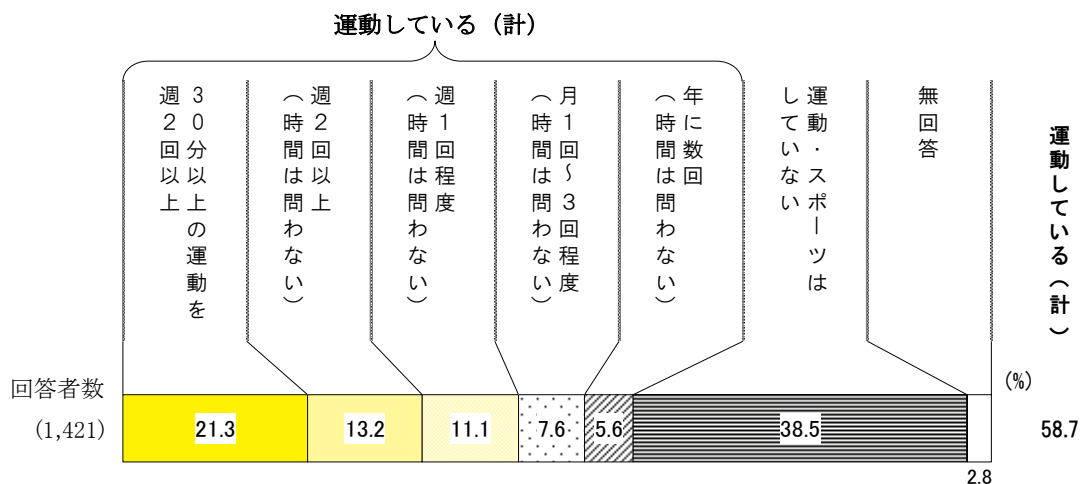
1 運動・スポーツの実践頻度別の割合は、頻度の高い順に以下のとおりとなっています。

- ①「30分以上の運動を週2回以上」(21.3%)
- ②「週2回以上(時間は問わない)」(13.2%)
- ③「週1回程度(時間は問わない)」(11.1%)
- ④「月1回～3回程度(時間は問わない)」(7.6%)
- ⑤「年に数回(時間は問わない)」(5.6%)

2 上記5項目を合わせた【運動している】は58.7%となっています。

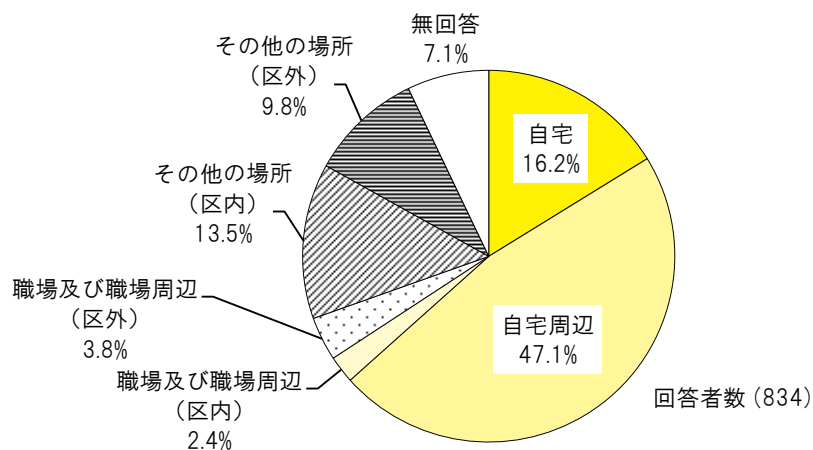
日常的な運動・スポーツの実施状況

【運動している】は6割弱で、「30分以上の運動を週2回以上」は2割強となっています。



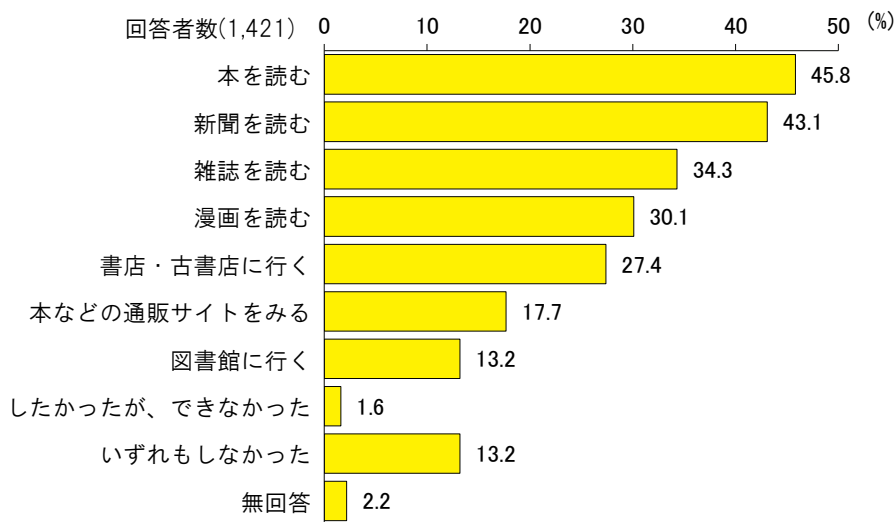
運動・スポーツを最も多く行っている場所 ※「運動している (計)」人の回答

運動・スポーツの実施場所は、「自宅周辺」が4割台半ば、次いで「自宅」が1割台半ばとなっています。



読書に関わる行動状況（複数回答）

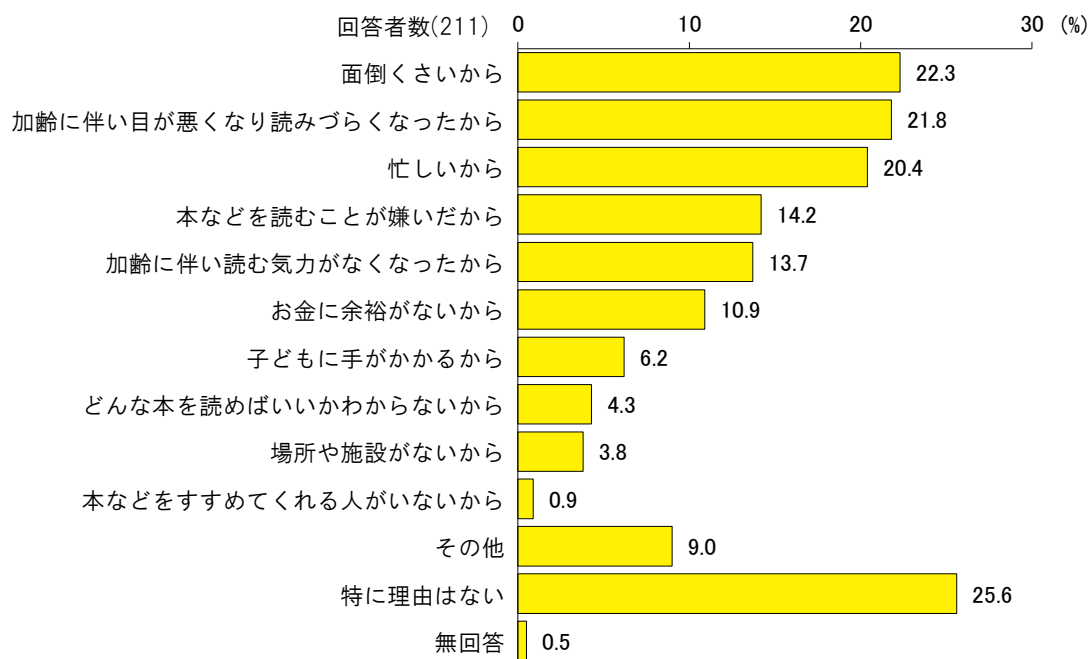
「本を読む」「新聞を読む」「雑誌を読む」「漫画を読む」「書店・古書店に行く」の上位5項目の順位に変化はありませんでした。



読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由（複数回答）

※読書に関わる行動がなかった人の回答

「面倒くさいから」、「加齢に伴い目が悪くなり読みづらくなったから」、「忙しいから」の順となっています。

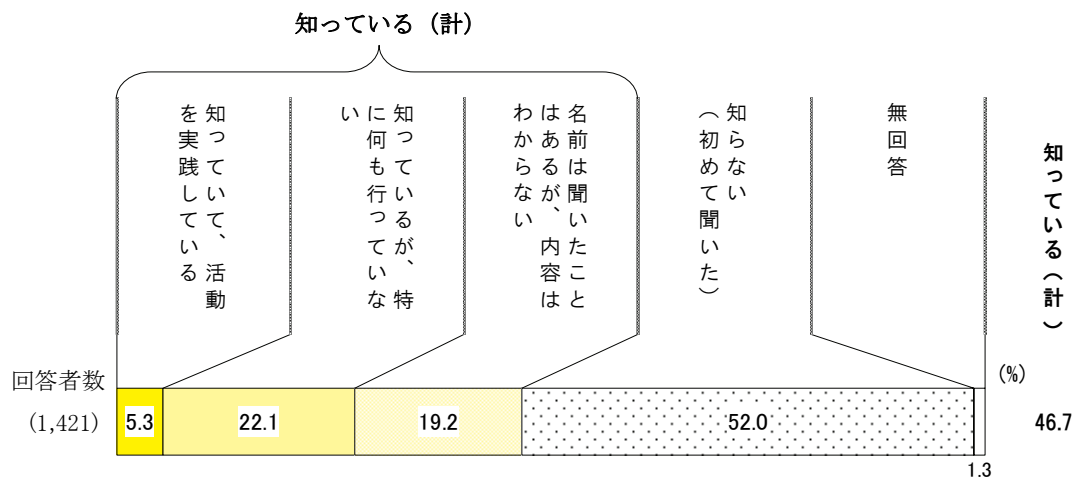


ビューティフル・ウィンドウズ運動

- 1 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知っていて、活動を実践している」は5.3%で、これに「知っているが、特に何も行っていない」(22.1%)と「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」(19.2%)を合わせた【知っている】は46.7%となっています。
- 2 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知らない(初めて聞いた)」は5割超となっています。

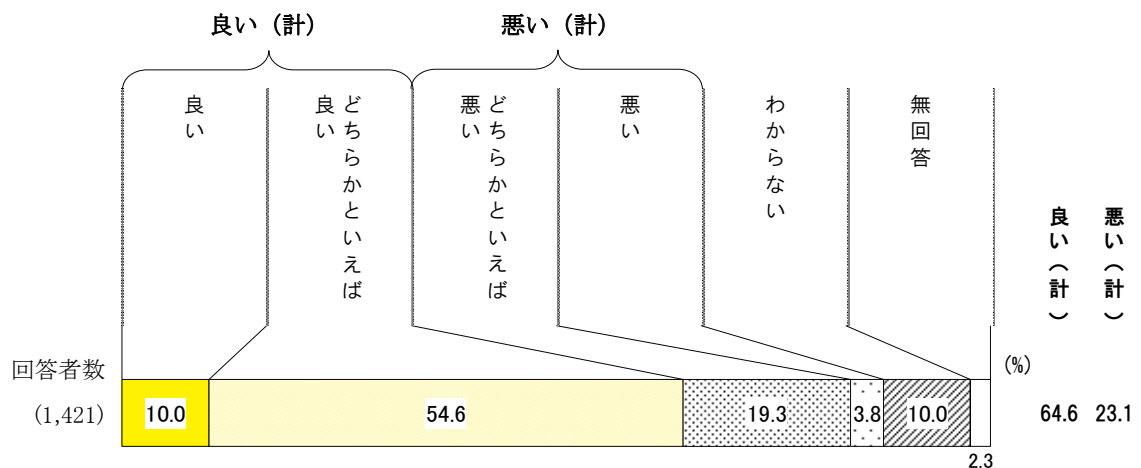
「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

【知っている】が4割台半ば、「知らない(初めて聞いた)」が5割超となっています。



居住地域の治安状況

【良い】は前回から5.1ポイント増加し、6割台半ばとなっています。

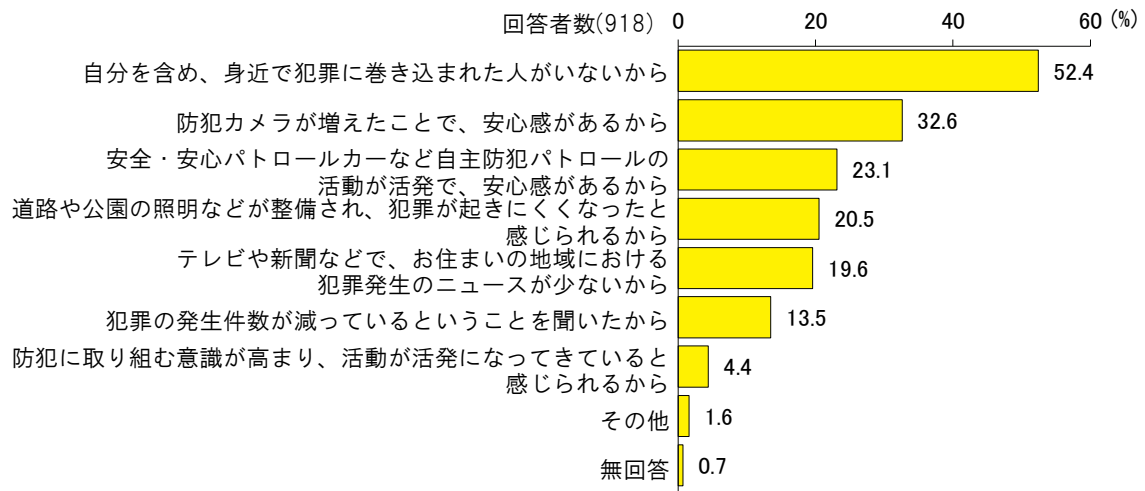




治安が良いと感じる点（〇は2つまで）

※区内の治安が【良い】と感じる人の回答

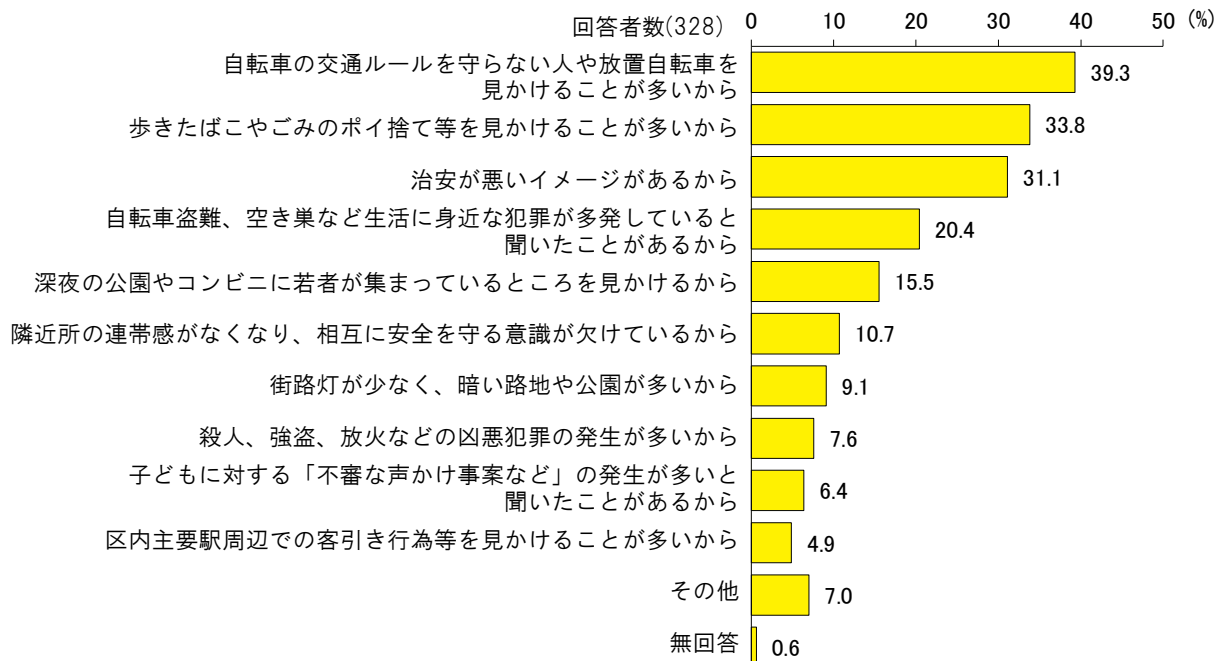
「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が5割超で最も高くなっています。



治安が悪いと感じる点（〇は2つまで）

※区内の治安が【悪い】と感じる人の回答

「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」が約4割で1位、「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」が3割台半ば近くで2位となっています。



環境・地域活動

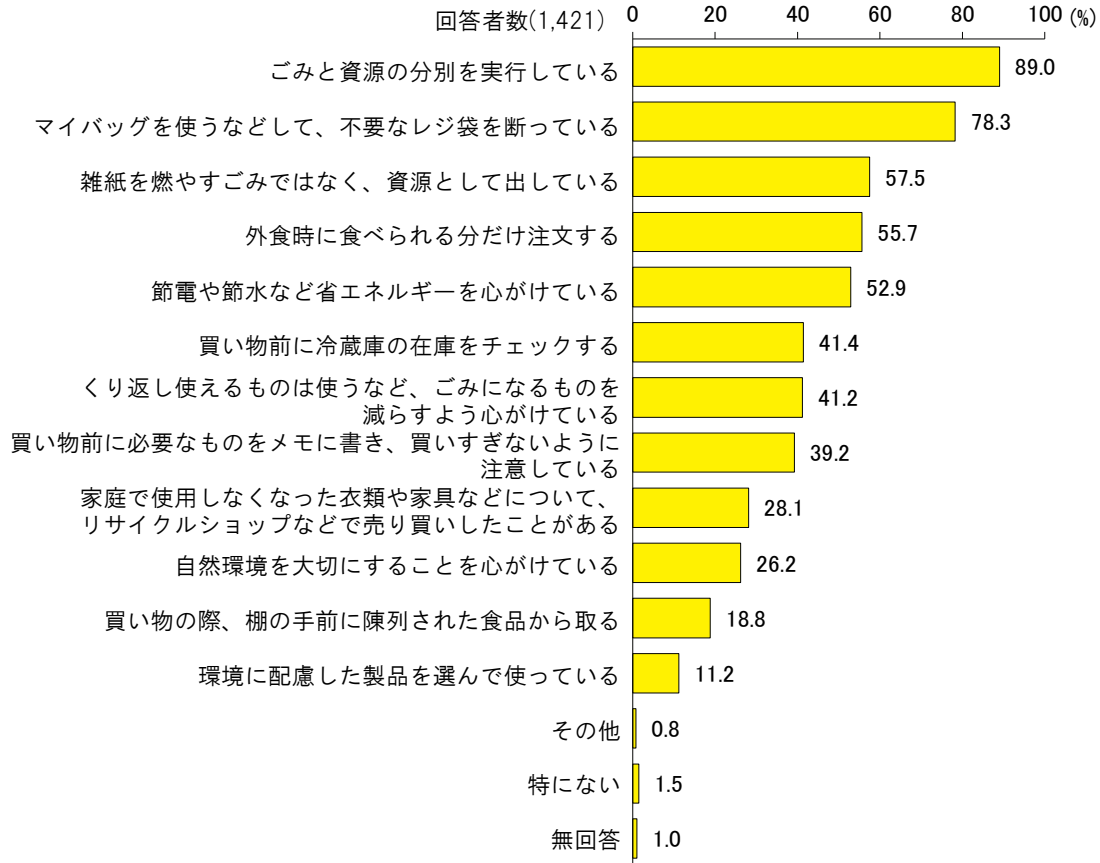
1 環境のために心がけていることの上位をみると、以下のとおりとなっています。

- ①「ごみと資源の分別を実行している」(89.0%)
- ②「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(78.3%)
- ③「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」(57.5%)
- ④「外食時に食べられる分だけ注文する」(55.7%)
- ⑤「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(52.9%)

2 前回調査と比較すると、ほとんどの項目で割合が増加しており、「外食時に食べられる分だけ注文する」(7.3ポイント)と「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」(5.0ポイント)で5ポイント以上の増加となっています。

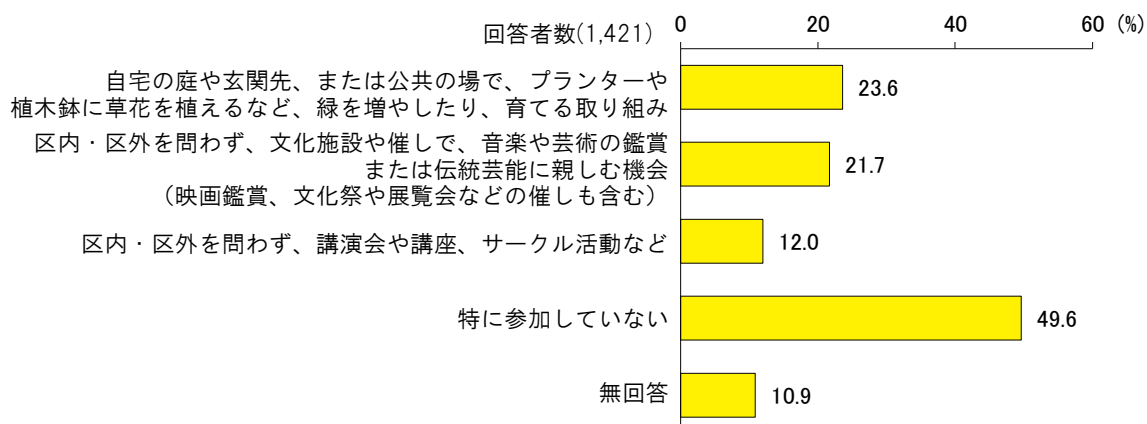
環境のために心がけていること（複数回答）

「ごみと資源の分別を実行している」が約9割、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」が8割弱となっています。



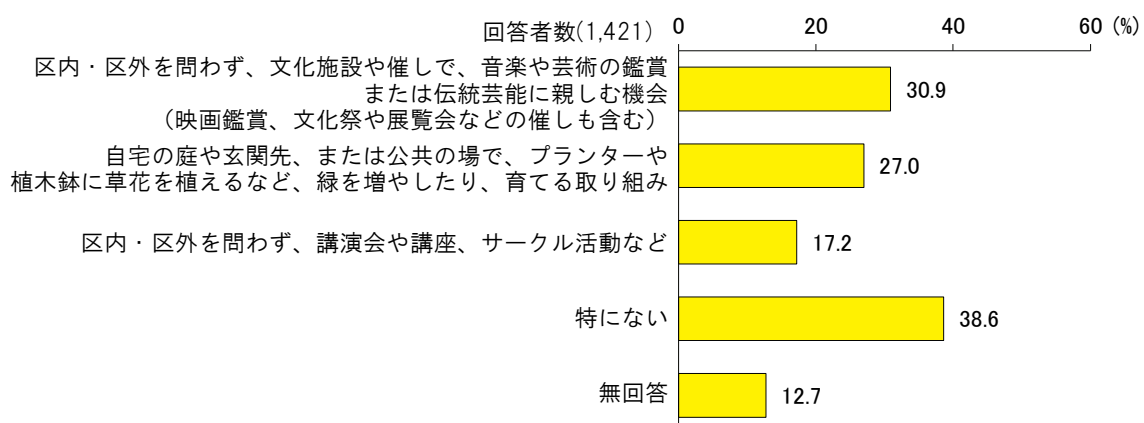
この1年間に参加した活動（複数回答）

「特に参加していない」が約半数で最も高くなっています。参加した活動では、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」が2割台半ばで高くなっています。



引き続き、または今後参加したいと思う活動（複数回答）

「特にない」が4割弱で最も高くなっています。引き続き、または今後参加したいと思う活動は、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」が約3割で高くなっています。



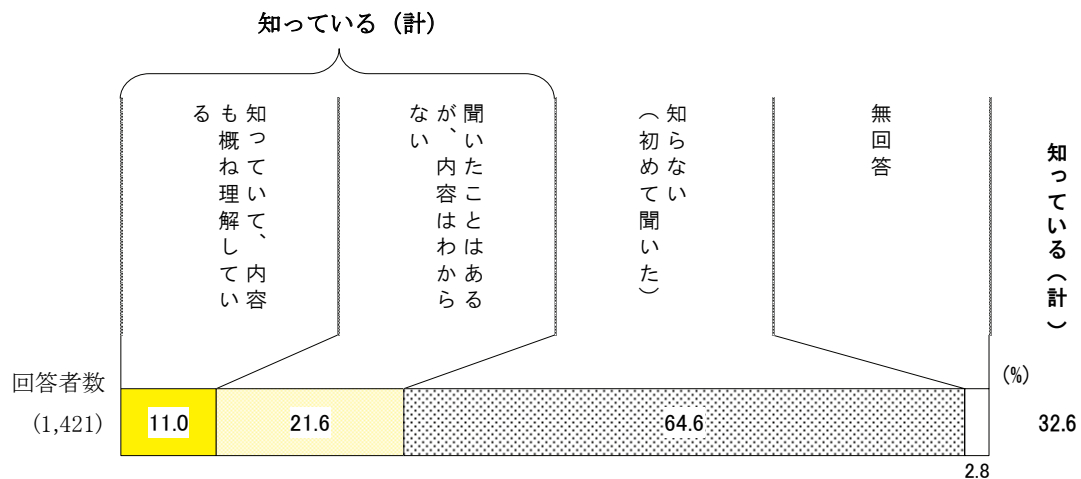
「孤立ゼロプロジェクト」など

- 1 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、「知っていて、内容も概ね理解している」が11.0%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の21.6%を合わせた【知っている】は32.6%となっています。
- 2 「孤立ゼロプロジェクト」を「知らない（初めて聞いた）」は64.6%を占めています。



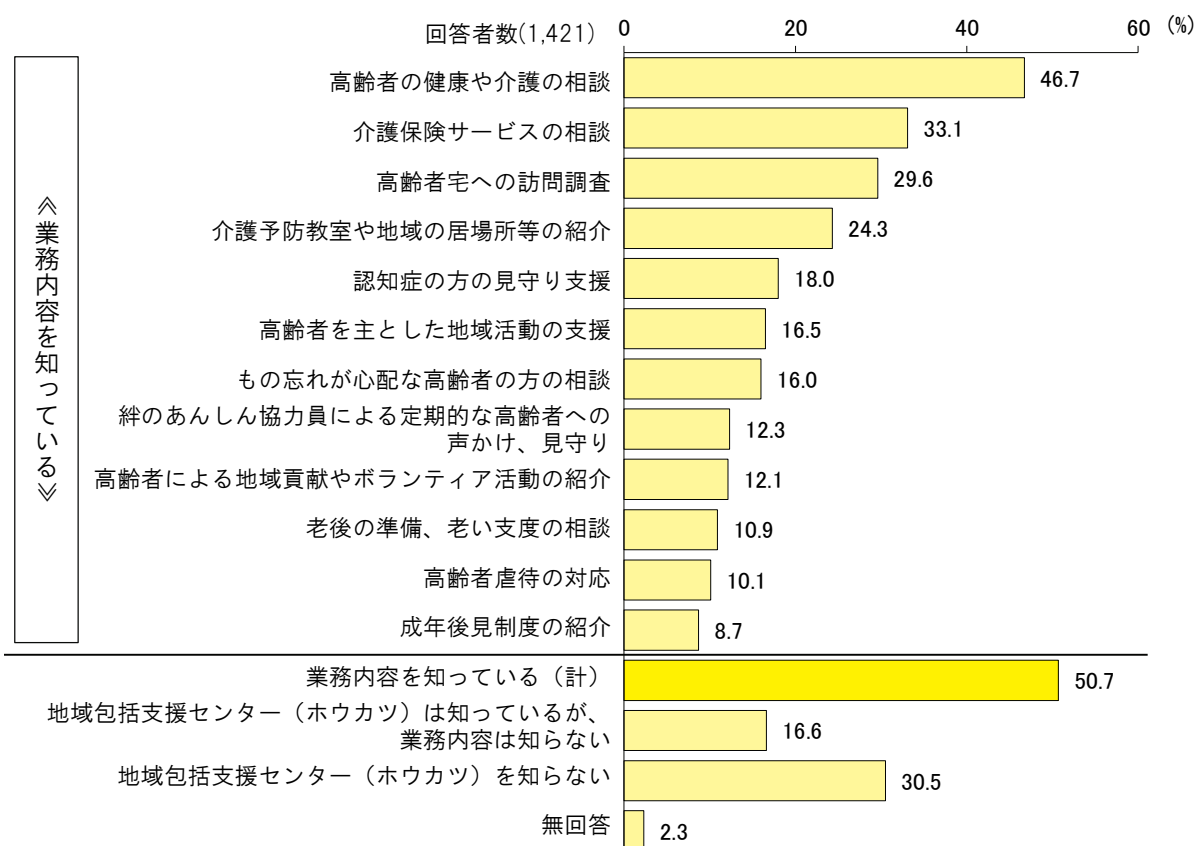
「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

【知っている】は3割台半ば近くで、「知らない（初めて聞いた）」が6割台半ばとなっています。



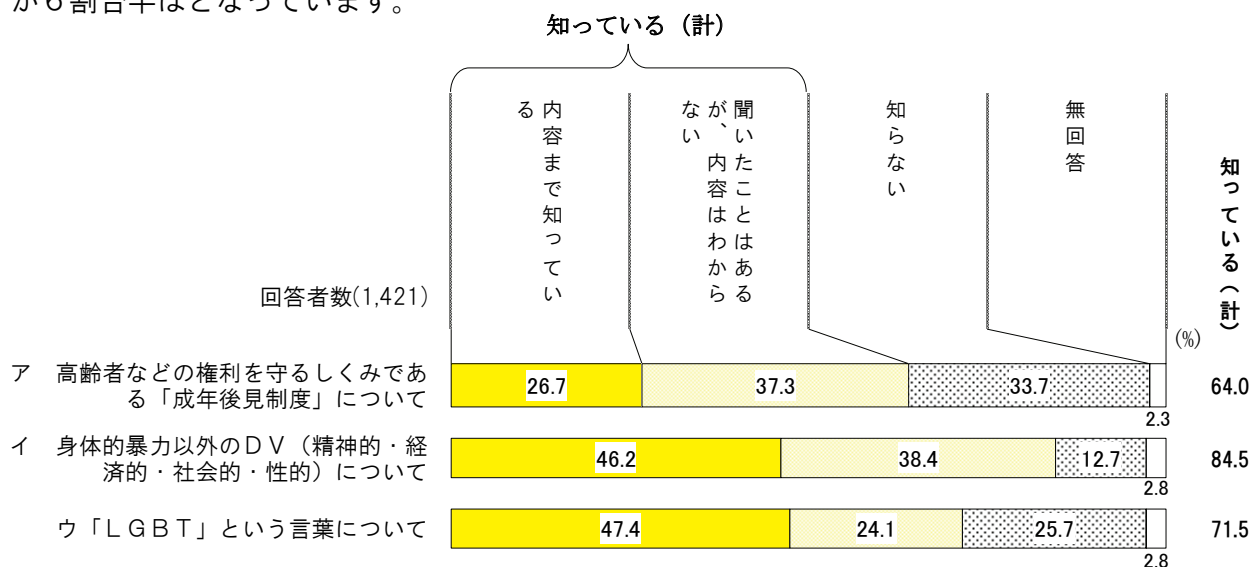
「地域包括支援センター」、及び業務内容の認知（複数回答）

【業務内容を知っている】が5割、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」が3割となっています。知っている業務内容は、「高齢者の健康や介護の相談」、「介護保険サービスの相談」、「高齢者宅への訪問調査」の順となっています。



「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

【知っている】は〈身体的暴力以外のDV〉が8割台半ば、〈LGBT〉が7割超、〈成年後見制度〉が6割台半ばとなっています。

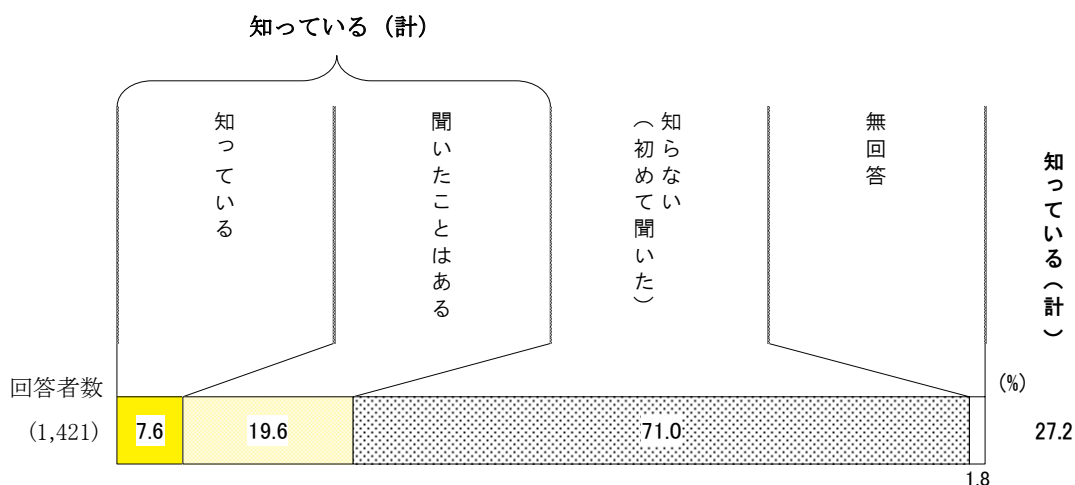


「協働・協創」・「SDGs」

- 1 「協創」について「知っている」が7.6%で、これに「聞いたことはある」(19.6%)を合わせた【知っている】は27.2%となっています。一方、「知らない(初めて聞いた)」は71.0%を占めています。
- 2 前回調査との比較では、「知っている」が3.3ポイント減少し、「知らない(初めて聞いた)」が4.4ポイント増加しています。

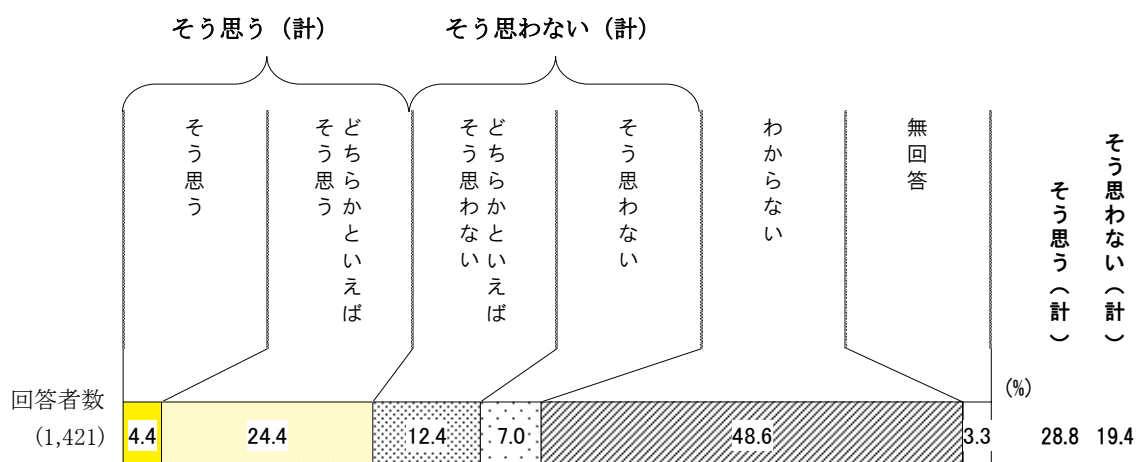
「協創」の認知

【知っている】は、前回の3割から3.6ポイント減少しています。



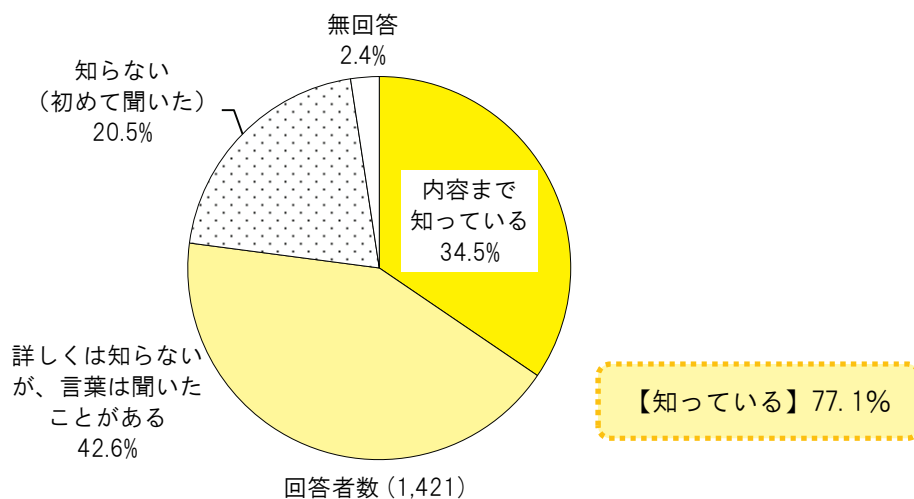
区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

【そう思う】(3割弱)が【そう思わない】を上回っているものの、「わからない」が5割弱となっています。



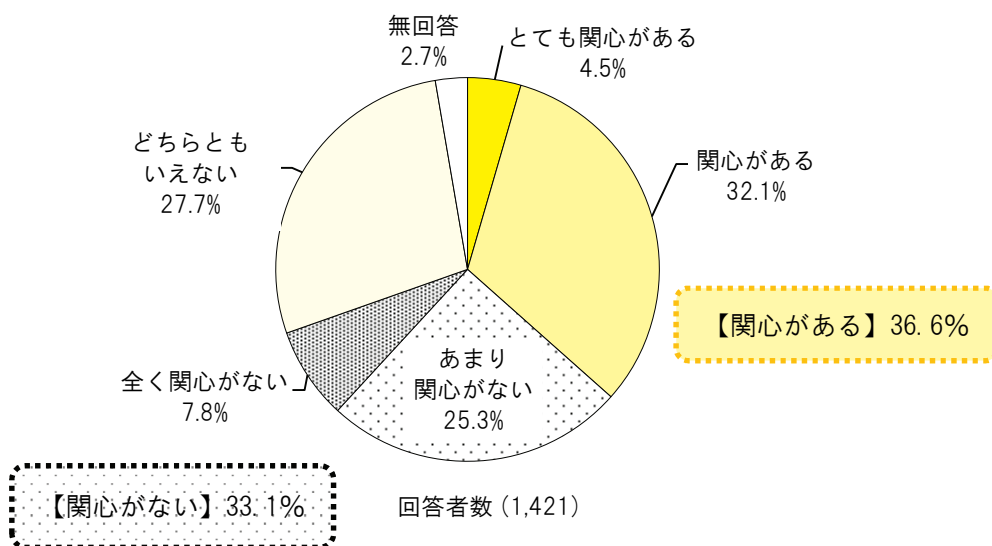
SDGsの認知状況

「内容まで知っている」が3割台半ば、【知っている】が7割台半ば超で変化なしとなっています。



SDGsの関心状況

「関心がある」が3割台半ばで、【関心がない】の3割半ば近くを上回っています。



区への取り組み

1 区に対する気持ちについて計5項目にわたって聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】を高い順にみると、以下のとおりでした。

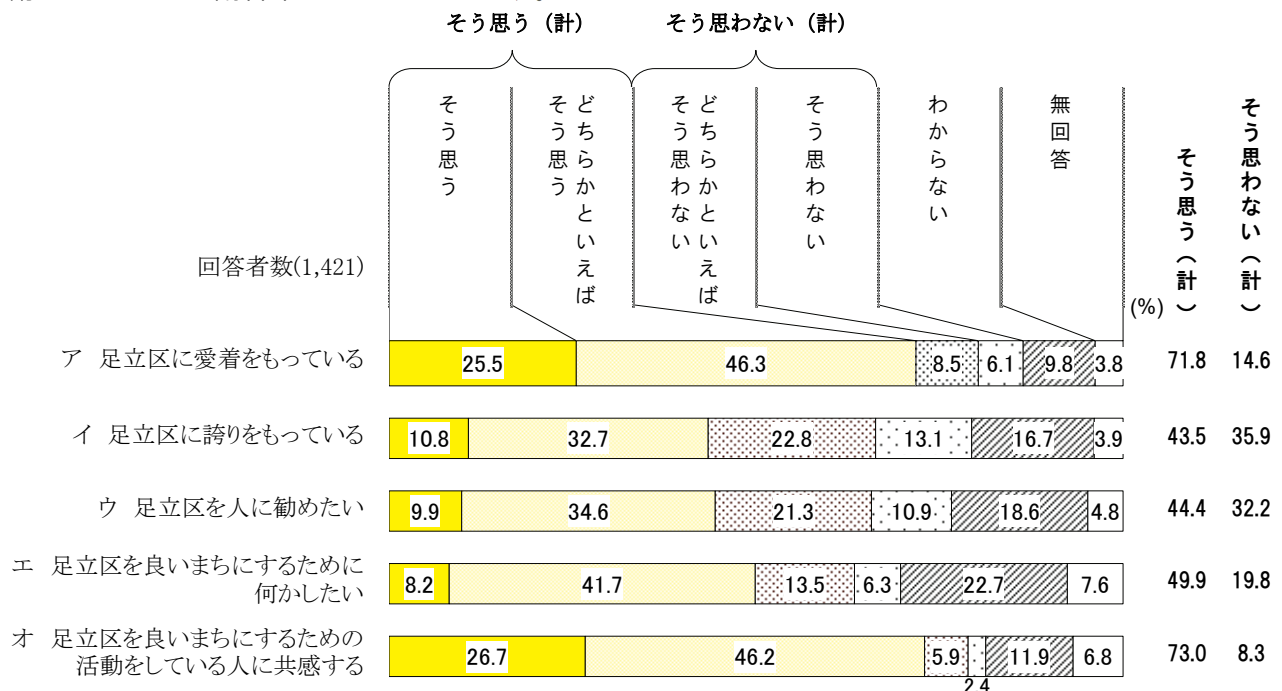
- ①〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉(73.0%)
- ②〈足立区に愛着をもっている〉(71.8%)
- ③〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉(49.9%)
- ④〈足立区を人に勧めたい〉(44.4%)
- ⑤〈足立区に誇りをもっている〉(43.5%)

2 区への取り組みについて、満足している分野、不満な分野、今後特に力を入れてほしい分野を聞いたところ、それぞれの上位5分野は、以下のとおりでした。

	満足している分野		不満な分野		今後尽力してほしい分野	
1	情報提供	41.4%	交通対策	19.6%	交通対策	36.2%
2	自然・緑化対策	37.4	住環境対策	12.4	防災対策	33.4
3	保健衛生対策	27.3	都市開発	11.8	高齢者支援	32.6
4	高齢者支援	21.7	高齢者支援	11.1	都市開発	29.7
5	職員の接客態度	19.2	低所得者支援	10.1	自然・緑化対策	26.2

区に対する気持ち

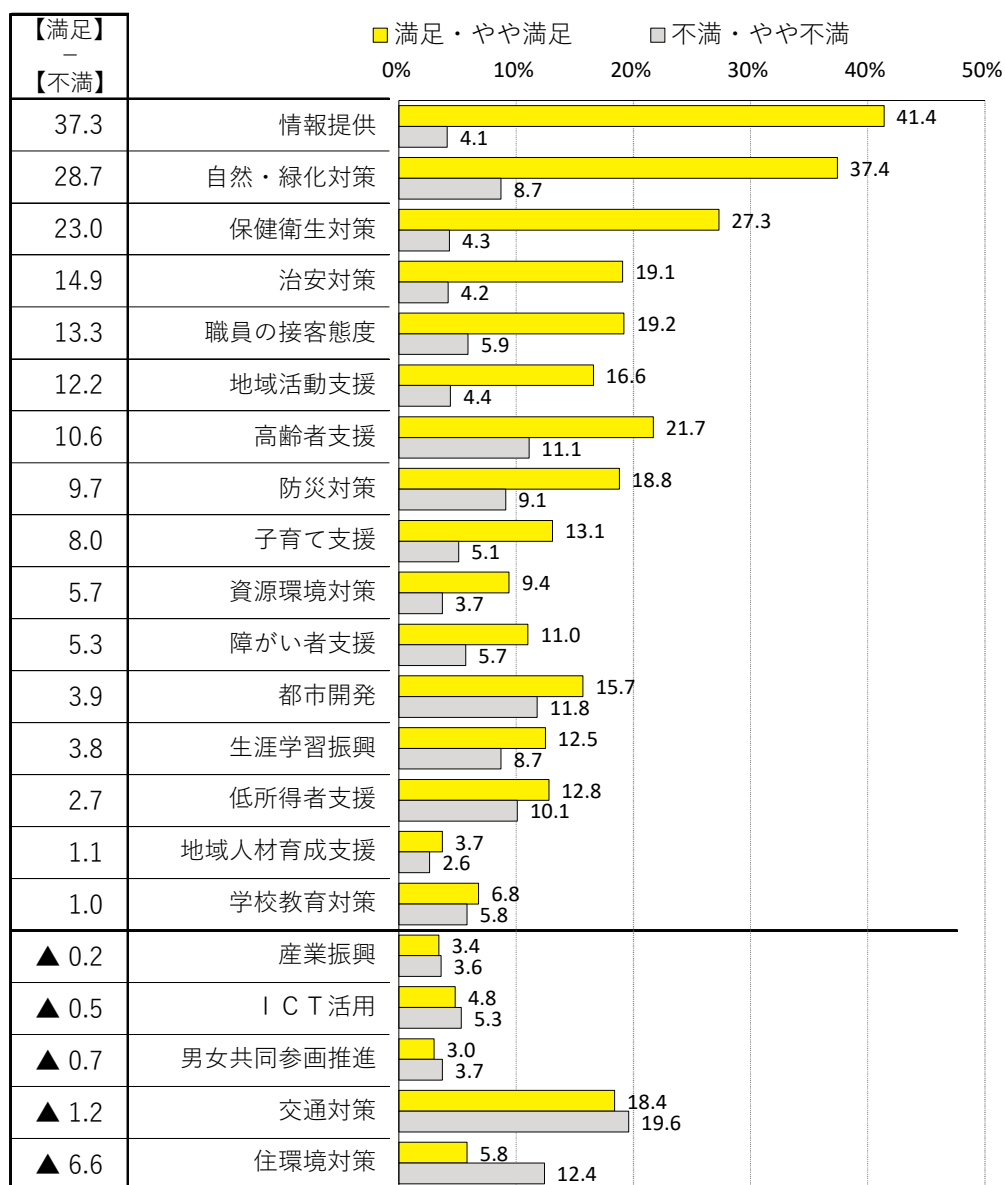
区に対する気持ちについて【そう思う】は、“足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する”が7割半ば近くで最も高く、以下“足立区に愛着をもっている”が7割超、“足立区を良いまちにするために何かしたい”が約5割、“足立区に誇りをもっている”と“足立区を人に勧めたい”が4割台半ばとなっています。





区を取り組み（分野）に対する評価（【満足割合】－【不満割合】）

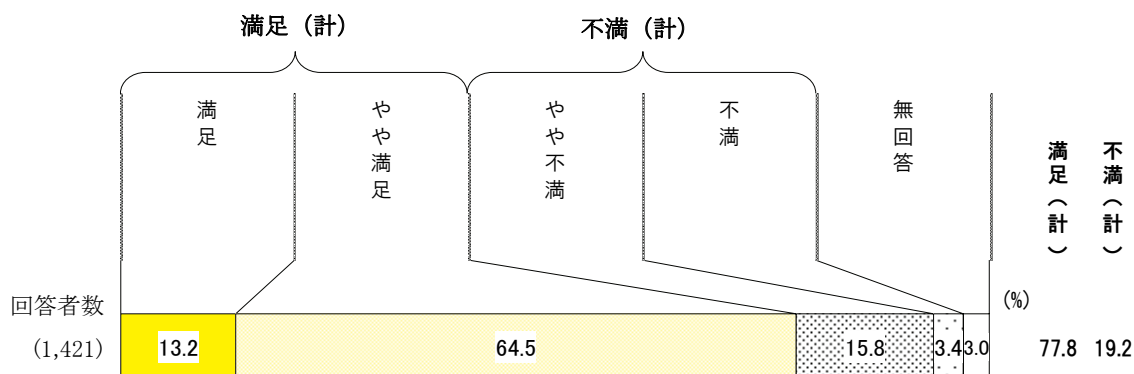
- ・【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）
「情報提供」（+37.3 ポイント）、「自然・緑化対策」（+28.7 ポイント）、「保健衛生対策」（+23.0 ポイント）、「治安対策」（+14.9 ポイント）、「職員の接客態度」（+13.3 ポイント）
- ・【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（－2 ポイント以上）
「住環境対策」（－6.6 ポイント）
- ・「交通対策」については、【満足評価割合】が21項目中8番目に高いですが、【不満評価割合】が最も高いため、評価としては、『不満割合が高い取り組み』となっています。





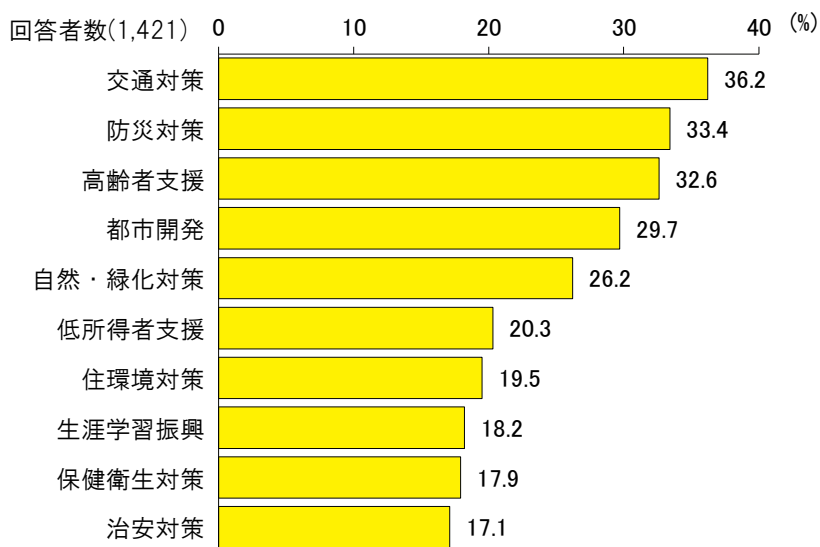
区政に対する満足度

【満足】は7割台半ば超、平成25年の設問開始以降で最も高い割合となっています。



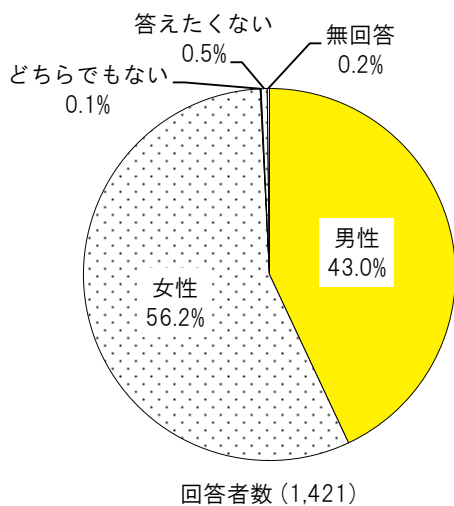
今後特に尽力してほしい取り組み分野（複数回答） ※上位 10 分野

「交通対策」が3割半ばで最上位、次いで「防災対策」「高齢者支援」が3割半ば近くで続いています。

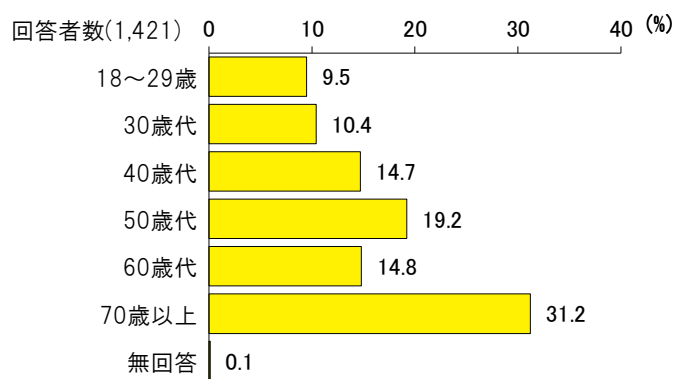


回答者の構成

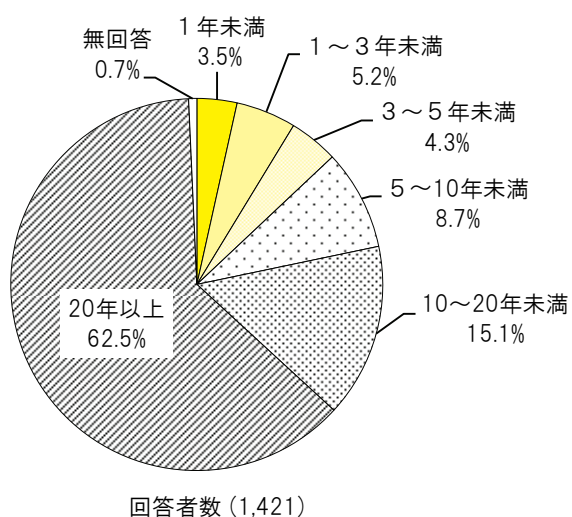
性別



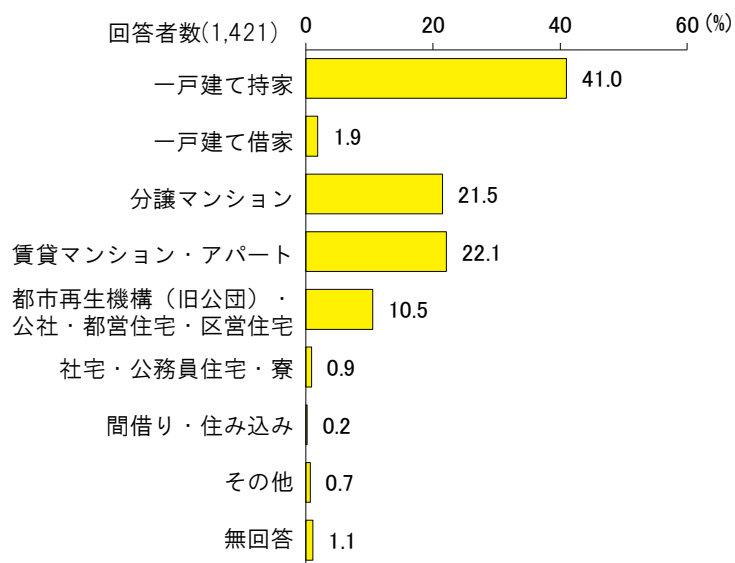
年齢



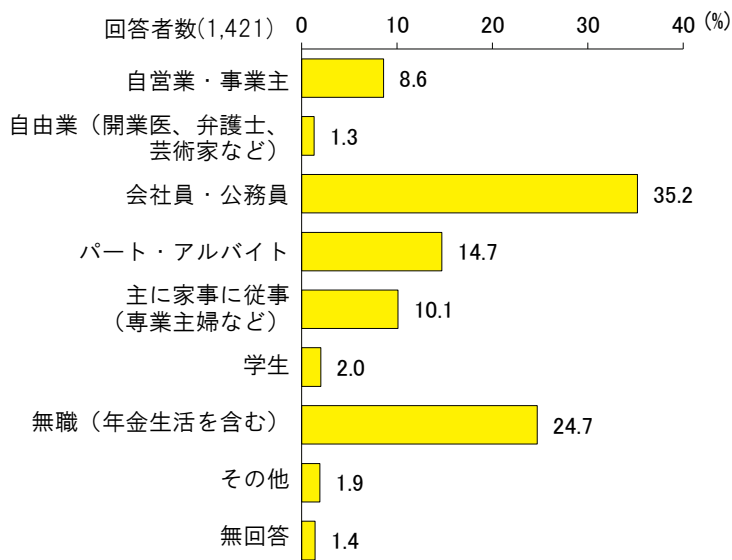
居住年数



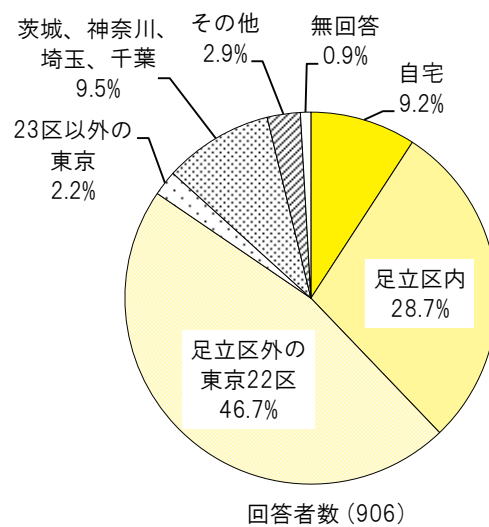
住居形態



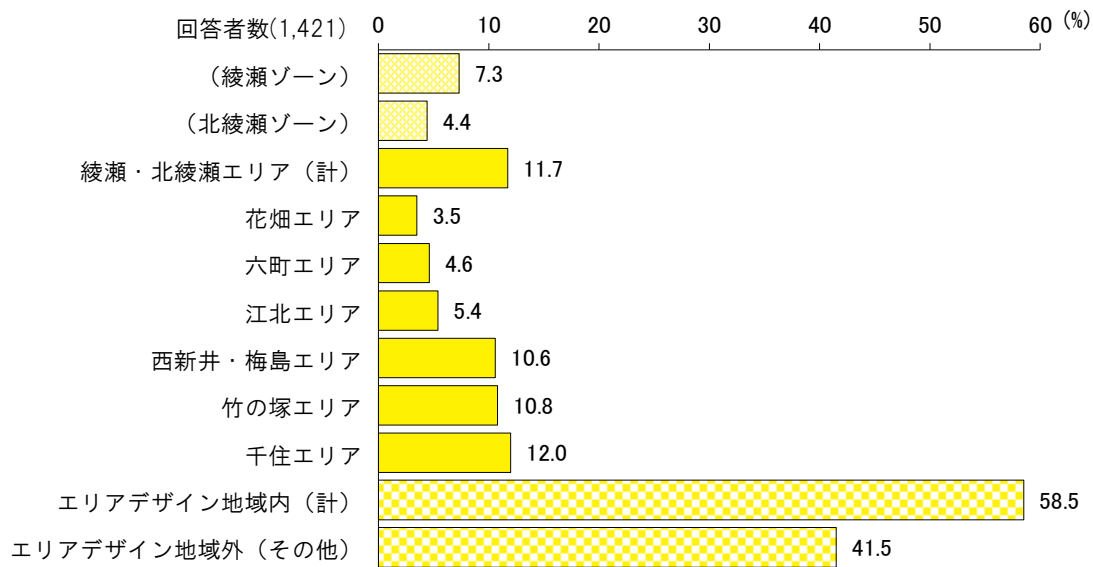
職業



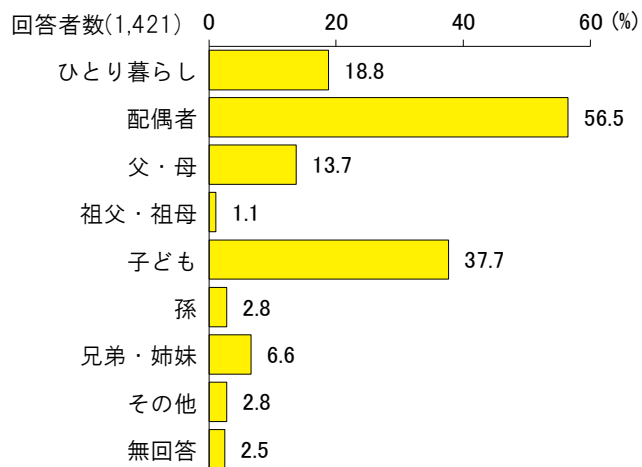
就労(就学)場所



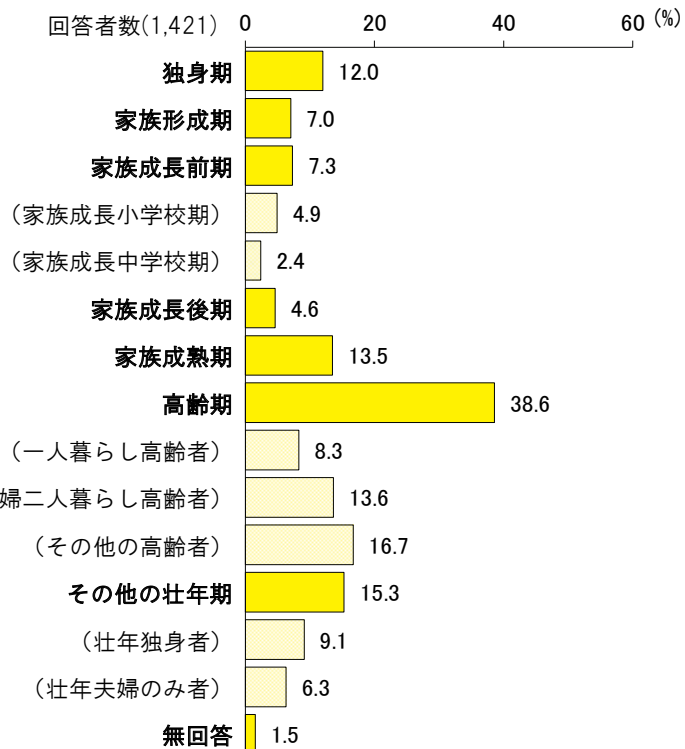
エリアデザイン



同居家族（複数回答）



ライフステージ



《 ライフステージの定義 》

ライフステージ別（7 カテゴリー）

- ・ 独身期 40歳未満の独身者
- ・ 家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
- ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 - (家族成長小学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 - (家族成長中学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
- ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
- ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
- ・ 高齢期 本人が65歳以上の人
 - (一人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 - (夫婦二人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 - (その他の高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
- ・ その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 - (壮年独身者) 本人が40歳～64歳で独身
 - (壮年夫婦のみ者) 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦

* 令和7年1月1日現在



知ると分かる、すると覚わる。



16 平和と公正を
すべての人に



この概要版は再生紙を使用しています。